

「化粧品科学へのいざない」セミナー 講義スケジュール及び講師情報

講義スケジュール ※時間は、全て18:00~19:30

回	開催日	テーマ	講師名(継省略)
第1回	10月5日	オリエンテーション	坂本 一民
第2回	10月12日	化粧品科学と社会	能崎 章輔
第3回	10月19日	化粧品心理学①:文化史	阿部 恒之
第4回	10月26日	処方基礎界面科学	坂本 一民
第5回	11月9日	科学技術とマーケティング	能崎 章輔
第6回	11月16日	化粧品心理学②:感情調節効果	阿部 恒之
第7回	11月30日	化粧品の皮膚科学的応用①	菊地 克子
第8回	12月7日	スキンケアサイエンス	細井 純一
第9回	12月14日	化粧品の安全性と評価	増田 光輝
第10回	12月21日	化粧品の皮膚科学的応用②	田上 八朗
第11回	1月11日	日本の化粧品規制	高橋 守
第12回	1月18日	諸外国の化粧品規制	高橋 守
第13回	1月25日	化粧品の科学技術史	南野 美紀
第14回	2月1日	化粧品開発と知的財産	北野 健
第15回	2月8日	化粧品とビジネスアライアンス	調整中

講義内容 ※内容は、詳細が決まり次第随時ご紹介いたします。

回	開催日	テーマ	内容
第2回	10月12日	化粧品科学と社会	化粧品には長い歴史があり、紅おしろいはあったが、化粧品という言葉は明治に生まれた。化粧の哲学が確立し、社会的な価値観・美意識が加わって、自然科学を軸に化粧品科学が確立した。人文科学・社会科学も含め3科兼学が必要な訳は何か？ 化粧品技術は科学と社会を繋ぎ、五感を通して人の感性に語り掛ける。騙りになるリスクを伴っている？化粧品開発のコツに繋がる、ツボに近づくには？ 色素や香料ではなく、色彩・匂いに意味がある。
第3回	10月19日	化粧品心理学①:文化史	化粧の歴史を、生物の進化という巨視的な視点、西洋対日本という比較文化的視点、明治維新以降の日本という近代史的視点など、レンズの拡大率を変えながら振り返る。 キーワード:化粧品の起源。「けわい」と「けしやう」。スキンケアとメイクの区別、油と水、衛生観。公と私。慈しむ化粧と飾る化粧。
第5回	11月9日	科学技術とマーケティング	科学技術の一分野、化粧品研究技術・開発技術とマーケティングに特化した話題。時と所の違い、変化する時代の要請に対応し続ける、化粧品技術のあるべき要は？ 市場の変化に即応するマーケティングを支えるには？ 時代を先取りし、待機し何時でも得意即妙の対応ができる研究開発体制、ソフトサイエンスの視座。市場の大きなうねりのような、変化は人々の志向・嗜好の変化、感性対応が必要？ 心の変化、心理的飽和現象に応えるヒント。
第6回	11月16日	化粧品心理学②:感情調節効果	スキンケア・メーキャップ・フレグランスの心理効果を総合的に解説する。化粧は、不要不急の行為であり、楽しみとして行うものであるが、人類の福利厚生に寄与するという側面も有していることを、データでお示ししたい。キーワード:リラックスとリフレッシュのカーブ、アイシャドーの錯視、顔だちマップ、化粧療法、アロマロジー、「いやし」と「はげみ」、日常生活に埋め込まれた感情調節装置。
第8回	12月7日	スキンケアサイエンス	バイオサイエンスの技術は日々進歩している。スキンケア製品を開発するうえで今後有用となる科学技術について広く解説するとともに、皮膚と切り離せない全神経の調節機構に関して、生理学的な観点からの理解を深める。

講師プロフィール（敬称略）

講師名	担当回	プロフィール	顔写真
坂本一民	第1回 第4回	東京理科大学理工学部 客員教授 1971年東北大学工学部工学研究科応用化学専攻修士課程修了。同年味の素(株)入社、中央研究所応用研究部第2研究室室長、アミノサイエンス研究所応用研究部部長、(株)資生堂特別技術顧問、(株)成和化成取締役研究部長、横浜国立大学客員教授、千葉科学大学薬学部生命薬科学科教授を歴任。	
能崎章輔	第2回 第5回	日本輸入化粧品協会 相談役 薬学から化粧品科学体験1960年～2009年まで薬学から化粧品科学体験まで幅広く携わる。帝人パビリオ・東洋ビューティサプライ・長瀬化粧品設立に関与し、井田ラボラトリーズ設立に参画。73歳でサラリーマンを卒業。元日本化粧品工業連合会広報委員長。	
阿部恒之	第3回 第6回	東北大学大学院文学研究科心理学講座 教授 資生堂ビューティサイエンス研究所に21年間勤務後、東北大学に。現在東北大学大学院文学研究科心理学講座教授（文学研究科副研究科長）。博士（文学）。専門領域は感情心理学（化粧行動・顔の認知・嗅覚・災害）。	
菊地克子	第7回	※掲載用データ確認中	
細井 純一	第8回	資生堂グローバルイノベーションセンター 癌研究のためのNIH、Harvardの留学を通じて皮膚免疫研究に携わり、資生堂においてホリスティックな観点からの皮膚の研究を開始。	
増田光輝	第9回	※掲載用データ確認中	
田上八朗	第10回	※掲載用データ確認中	
高橋守	第11回 第12回	※掲載用データ確認中	
南野美紀	第13回	※掲載用データ確認中	
北野健	第14回	※掲載用データ確認中	